



「私を支えてくれたもの」

私は10歳の時にがんを発病し、16歳で治癒しました。告知をされた時は、地元の学校に通えなくなることで、「病院で勉強できるの?」「友だちと遊べなくなるの?」など多くのことに悩みましたが、入院してすぐに院内学級で勉強を始めることができ、同じ病気と闘う友人も出来ました。闘病中は、もとの学校の友達、病院で知り合った友達との文通を通じて多くの人とのつながりができ、それは私にとって本当に大きな支えでした。

当時はインターネットも普及しておらず、がんに関する情報も少なく、母はがんに関する情報を図書館や書店で得ていたようです。最近では、ウェブサイトや書籍からがんに関する情報も多く得ることができます。また、多くの病院では相談員が常駐しています。ぜひ、そのような場を活用して欲しいと思います。悩みを自分の中だけでためず、多くの専門家や地域の情報を知ることによって解消して欲しいと思います。

闘病中は、病気以外の面で悩むことが沢山あり、それは病院の友達も同じでした。悩みを多方面の分野で支えてくれる方々に相談することで、病気を告知された時から治るまでの色々な場面の助けになると感じました。このサポートハンドブックを読まれている方々が、この本から多くの情報を得て支援とつながり、病気に明るく向き合ってくれたら良いなと思います。

(20代 女性)

第3部

お金のことについて





第3部は、治療費の負担を軽くする保険や各種制度について紹介しています。